

●シンポジウム●

増大する地震動レベルと今後の耐震設計

— 3.11を踏まえた意識調査を基に —

※当日 Ustream 有料配信を試行いたします。視聴希望の方は[こちら](#)からお入りください。

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地震荷重小委員会

＜後援＞ 日本建築構造技術者協会、日本鋼構造協会、日本コンクリート工学会、日本地震学会、日本地震工学会、日本免震構造協会

3.11地震の発生により地震発生の考え方が変化し、南海トラフの三連動地震や上町断層地震などへの対策が求められている。従来設計で想定されていた振幅レベルや継続時間を大きく上回る入力地震動に対し、地震動の大きさを評価できる地震動指標と建物の終局耐震性能を評価できる応答指標を改めて評価して整理することは、地震荷重や耐震設計体系にとって極めて重要となる。本シンポジウムでは、3.11前後に実施したアンケート調査に基づき、地震動評価側・構造設計側・両者を統合する立場の三者の意識を分析し、論点を整理する。さらに、パネリストによる地震動評価と構造物応答評価に対する意見表明と討論を行い、今後の耐震設計に向けた課題と方向性を示すことを目指す。

日時 — 2012年7月31日(火) 13:00～17:30 ←*終了時間が30分延長になりました。

会場 — 建築会館ホール（東京都港区芝5-26-20）

【プログラム】（タイトル・時間・発表順は変更されることもあります）

- | | | |
|-------------------------|-------------|--|
| 1. 主旨説明 | 13:00～13:10 | 林 康裕（地震荷重小委員会主査／京都大学） |
| 2. アンケート調査に基づく意識調査結果の分析 | 13:10～13:55 | |
| 2-1 アンケート調査の概要 | | 田村和夫（千葉工業大学） |
| 2-2 集計結果に基づく意識の分析 | | 小林正人（明治大学） |
| 2-3 自由記述に基づく意識の分析 | | 永野正行（東京理科大学） |
| 2-4 論点の整理 | | 土方勝一郎（東京電力） |
| 3. 地震動評価、応答評価の今後の方向性 | 13:55～14:30 | |
| 3-1 地震動評価の今後の方向性 | | 壇 一男（清水建設） |
| 3-2 構造物応答評価の今後の方向性 | | 林 康裕（前掲） |
| 3-3 構造設計の今後の方向性 | | 北村春幸（東京理科大学） |
| —— 休憩（14:30～14:40） —— | | |
| 4. 今後の方向性に関する討論 | 14:40～ | |
| 4-1 地震動評価の今後の方向性 | | 加藤研一（小堀鐸二研究所）、瀨瀨一起（東京大学地震研）、翠川三郎（東京工業大学） |
| 4-2 構造物応答評価の今後の方向性 | | 岡野 創（小堀鐸二研究所）、倉本 洋（大阪大学）、吹田啓一郎（京都大学） |
| 4-3 構造設計の今後 | | 塚谷秀範（三菱地所設計）、鳥井信吾（日建設計）、西影武知（大林組） |
| 5. 全体討論 | ～17:20 | |
| 6. まとめ | 17:20～17:30 | 北村春幸（前掲） |

司会：佐藤俊明（清水建設）／石原 直（建築研究所）

記録：柳下文雄（東電設計）

定員：200名（当日会場先着順）

参加費：本会会員4,000円、後援団体会員5,000円、会員外6,000円、学生3,000円

*資料代3,000円含む。 *本会会員の方は会員証をご持参ください。

問合せ：日本建築学会事務局研究事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057